

京都市学校歴史 博物館だより VOL.5



学校に贈られた伝統の美と技 ～「西陣地域の学校文化財 その美と技能」展を開催～ (開催期間 3/29～6/5まで)

西陣。この地名は応仁の乱のおり、細川勝元の東陣に対し山名宗全が布陣した西の陣、すなわち西陣に由来することはあまりにも有名です。

明治2年、京都には全国に先駆けて64校もの番組小学校が開設されました。このうち7校が、同年10月から12月にかけて、この西陣一帯に開設されました。その中で「成逸」、「聚楽」、「桃園」、「西陣」と名付けられた4校の番組小学校は、以来、120年を越える輝かしい歴史を刻みながら、平成7年から平成9年にかけて閉鎖統合され、西陣中央小学校として新たな歩みを始めています。

京都の古い歴史をもつ学校、とりわけ番組小学校の伝統をもつ学校には、地元や卒業生の芸術家



「絲を繰る」

などから寄贈された数多くの美術工芸品や貴重な歴史資料が伝えられています。今回の特別展では、この伝統産業の地「西陣」地域に開設された番組

小学校に伝わる学校文化財の数々をご覧くださいます。

出展作品の中で、とりわけ、「絲を繰る」(福岡玉僊)や「機織り図」(喜多川玲明)は、伝統産業の地「西陣」へのおもい入れが伝わる作品として、また「西陣織裂貼交屏風」は、世界ブランド「西陣織」の粋がこめられ作品として、いずれも高い評価を受けています。

春爛漫の今、この展覧会をご覧ください、伝統の美と技の素晴らしさとともに、学校を支えた地域の人々や芸術家の熱いおもいを感じ取り、「こころの教育」や「学校と地域の連携」など、今日の教育の課題、そしてこれからの教育のあり方をお考えいただく機会となればと願っております。



「機織り図」

京都の教育の歴史とロマンを より多くの人々に伝えたい。

～開館3周年を迎える今年、学校歴史博物館は機能をさらに拡充していきます。～

収集・保存・再生

明治2年に日本で最初に64の学区制小学校を創設した京都。多くの歴史ある学校には、計ることのできな



子細に点検～学校歴史博物館文化財再生委員会～

い価値をもつ美術工芸品（学校文化財）や貴重な教育資料が伝えられています。市民の財産であるこれらを散逸や損傷させることなく、また損なわれたものをよみがえらせて、後世に伝えることは、学校歴史博物館に与えられた大きな使命の一つです。

収蔵資料等は既に1万1千点を超過しておりますが、京都の学校にはまだまだ貴重な資料が残されており、これらの収集・保存を進めていくとともに、さらに京都の旧い家々に眠っている品々の発掘にも力を入れていくなど、今後とも資料の充実に努めて参ります。

展示・公開

学校歴史博物館における展示コンセプトは、明治初期の京都の人々が求めた教育の理想を、今日の教育的課題と照らし合わせて、これからの教育の方向を考えていくこと、まさに「温故知新」をそのねらいとしています。

常設展示では、我が国の近代教育の先駆けである番組小学校の開校・運営をストーリー構成し、教育の歴史や学校を支えた地域社会などについて理解を深めるところにあります。

そして企画展示や特別展示では、学校文化財や貴重な資料をできる限り数多く公開し、それらが質量ともに素晴らしいものであり、京都の学校の歴史と伝統の賜物であることを多くの方々に知っていただくところにあります。そのため、展示内容や方法、開催時宜や期間、そしてキャプション（解説文）構成に至るまで

緻密に検討を加えて、開催してまいりました。

しかしながら、やはり著名な作家の手になる美術工芸品を常時観覧したい、あるいはもっと多くの資料を観覧したいなどの声を頂き、こうした要望を踏まえ、当館以外での会場を利用した展覧会の開催や、新たな展示スペースの確保も視野に入れながら、展示のあり方を検討してまいります。



外国からのお客様もたくさんおいでになります。

「見る博物館から参加・体験する博物館へ」

～多様な事業の展開～

開館以来、力を入れてきている取組の一つが、展示や収蔵品に関連した講演会や体験セミナーの開催など、「見る」ことから一段前進し、市民に親しまれる「参加・体験」事業の開催です。

特に平成12年度は、小学校から年配の方まで幅広い年代を対象にした事業を開催し、いずれも予想を上回る参加をいただくなど、大好評でした。これからも、多様な事業を企画し、「参加・体験」の場からふれあいの輪がひろがる事業を展開してまいります。



「書初教室」京都新聞平成13年1月7日から

調査・研究



貴重な研究資料の宝庫「教育ライブラリー」

学校の歴史の研究分野は、学校の設立に至る経緯、管理運営や教員人事のシステム、教育制度や指導内容、施設・設備や教材・教具、そして学校を支えた地域社会の変遷など、学校の歴史はそのまま国の政策や時代の要請を映した歴史でもあることから、広範かつ多様で奥深いものとなっています。

学校博物館では、機会をとらえ研究成果の報告を行うとともに、今後とも研究の充実に努め、類縁機関や市井の研究者とも連携を図りながら、今日の教育課題につながる調査・研究をすすめてまいります。

情報発信

開館後の日も浅く、また全国に例を見ない博物館でもあるため、設立趣旨や事業案内、収蔵品の紹介、さらには研究成果など、博物館をより多くの人々に知っていただくことが急務との認識から、パンフレットやポスターの配布、「学校歴史博物館だより」や「博物館年報」の発行、各マスコミなどを活用し、博物館情報の発信に努めてまいりました。また、平成11年11月にはインターネット上にホームページを開設、新たな情報システムを構築しました。こうした機能を活用しながら、これからの時代を見据えた情報発信を続けてまいります。



● 図博だより ●

学校歴史博物館ホームページ

<http://www.gakurehaku-unet.ocr.ne.jp>

ボランティア 市民学芸員の声



先人の遺徳に感動

久保 健男

入館された方に展示物を説明し、案内している
と、先人の業績と熱意に、入館者と共に感動する
ことが多い。

「日本を近代化するために教育をどう改革すれば良いか。」五人の
町衆が幕末に「寄り合い」を重ね、それを東町奉行所に提言した
が実現しなかった。再三の提言で明治元年、京都府知事を動かして
現在に至る小学校教育を誕生させた先人の遺徳は大い。

寺子屋教育を小学校教育に進展させた原動力は、福沢諭吉の欧
米の見聞録「西洋事情」に記述されている「小学校」を取り入れ、
スタートした事になる。それに付け加えて、各番組の町衆の熱意
が京都教育を進展させた偉大さも認識してもらいたい。

こんな思いで入館者に接している今日この頃である。



石井 小雪

京都市博物館ふれあいボランティア養成講座に応募、受
講終了後この館で京都の教育の歴史、学校創設、町衆の
あついで教育に対する情熱、経済的援助、当時の記録等を
拝見し、ぜひここで一日過ごせたら…と思っておりました。

卒業生からよせられたすばらしい美術工芸品を直接拝見し、
特に岸駒の鶴岡、岸駒岸岱の日の出に松には、今まで丸山広孝、四来派の
みか私の記憶にある中で、岸派も京都で活躍、門人に逸材が多く、江戸後
期から明治初期にかけては京都画壇を代表する一派である事をあらため
て教えられました。一つの作品が池に石を投げたら大きな波紋が起るよ
うに色々と多方面から新しい知識を得る事が出来る楽しい疑問、エネルギ
ーを戴ける数多い作品、展示品と対話し、自分自身も少しは視野が広がっ
たようだなあ……と。

来館の人が展示品を前にして、教育にたずさわった恩人達、すばらしい
人々が誕生したこの良き礎を二十一世紀に折り込んだ教育がほしいおし
やる方々、教科書を眺めこれこれなつかしいとじっと見詰める方々…と案
しいふれあいのひいとときを得、私を育ててくれる最高の博物館です。

これからの主な事業のおしらせ

●春の体験セミナー●

「おもちゃの手づくり教室」

(4/7)

四季折々の昔の子どもたちの遊びを、まず、おもちゃを
作ることから体験する事業。平成13年度からの新しい事業
として、年4回実施いたします。

●館外展示・特別展●

「学校文化財 美と装飾の屏風展」

～京都アスニー・京都市生涯学習振興財団創立20周年、
京都市学校歴史博物館開館3周年 記念事業～
(5/12～26 京都アスニー1F展示ホール 入場無料)

間仕切りや目隠しとしての生活家具でありながら、目を引くが
ゆえ、凝った意匠が施され装飾性が高められた「屏風」。
京都の学校には、地域の人々や芸術家から寄贈された屏風が

数多く伝えられており、これらを一堂に展示し、その素晴らしさと
あわせて、学校を支えた地域の人々の熱いおもいを感じ取っ
ていただきます。

●企画展示●

「東山地域の学校文化財」

(6月上旬)

「西陣地域の学校文化財」展にひきつづき、京都の伝統
産業・陶芸を支えた東山地域の学校に伝えられている学校
文化財を紹介します。

●参加・体験事業●

この他

「唱歌スクール」「三体千字文書法」
「日本画教室」

等の事業を5月から開催します。

展示や事業に関するお問い合わせは 京都市学校歴史博物館まで TEL344-1305



ひと・まち・ロマン 元気都市・京都

京都市学校歴史博物館だより VOL.5

■発行日/平成13年3月

■発行者/京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町通仏光寺下ル橋町437 (元開智小学校)

TEL(075)344-1305 FAX(075)344-1327 〒600-8044

■インターネット・ホームページ

http://www.gakurehaku-unet.ocn.ne.jp